



城ヶ丘



十日町小学校だより

令和7年3月24日

No.13

城ヶ丘っ子は「ひろく考える子

・みんなにやさしい子・心と体をきたえる子」

令和6年度 205 日間、3学期 51 日間は、明日の卒業式を残すのみとなりました。保護者の皆様のご協力と子どもたちの努力のお陰で、冬場の感染症流行も抑えられ、全体として元気に一年を締めくくることができました。また、上記の教育目標から見ても、大きな成長がありました。

<ひろく考える子>

個に応じた学習が求められる時代です。子どもたちは学年の締めくくりに向けて、それぞれの目標を定め、全校漢字・算数テストも自分の目標点を設定してクリアを目指すなど、こつこつと努力を続けてきました。真剣に努力を重ねることができる子が多いところは、十日町小の子どもたち「城ヶ丘っ子」の大きな長所です。

それと同時に、どのクラスでも、ペアやグループで関わり合いながら学ぶ姿がありました。これこそ学校ならではの学びの良さです。こうして関わり合って互いの考えを広げ、深まり合うことのできる「城ヶ丘っ子」は、これからも切磋琢磨して伸びていきます。

<みんなにやさしい子>

「共生＝共に生きること」を心にとめて過ごす子どもたち。前号の学校だよりでお伝えした「ゆめのおか ありがとうの会」のように、今年1年様々な形でふれあいの丘の友達と交流してきました。その経験が「相手を思いやる心」「互いを認め合う心」をさらに育て、日頃の城ヶ丘っ子同士の関わりにも表れています。下記の「6年生の卒業を祝う会」でも心つながる様子がありました。この「城ヶ丘＝ゆめのおか」で育んだやさしい心をもち続けていくことを願います。



カーニバル前に石拾いをする両校の子どもたち

<心と体をきたえる子>

雪の中でもスキー授業に果敢に取り組んだり、縄跳びに繰り返し挑んだりした3学期の子どもたち。その心と体が鍛えられているのは、毎日の坂道登下校の成果と言えるのではないのでしょうか。入学前は、保護者の皆様は「あんな坂道を登れるだろうか…」と心配されたことでしょうか。しかし、子どもたちは知らず知らずのうちに、たくましく筋力・持久力をつけているのです。大雪に見舞われたこの冬もたくましく坂道を登ってきた子どもたちに心から拍手を贈ります。

*保護者の皆様には、この1年も惜しみない協力をいただいてまいりました。地域の皆様にも、ボランティアや地域生活の見守り等、多くのご支援をいただきました。この1年のご理解とご協力、ご支援に心より感謝申し上げます。

26 日(水)から4月6日(日)まで春休みに入ります。子どもたちは進級・進学に向け、心身のリセットをするときです。短い春休みですが、新たなスタートに向けて準備を整えてほしいです。保護者の皆様、地域の皆様、これからも子どもたちへのご支援をよろしくお願いいたします。

● ○ ● ○ ● 6年生ありがとう! ● ○ ● ○ ●

3月4日(火)、5年生の企画による「6年生の卒業を祝う会」を行いました。6年生への感謝を込めて、学年ごとに役割を果たして準備し、プレゼントやメッセージ動画もつくりました。その思いを受けた6年生は、楽しい劇によりお返しをしました。タイムスリップして6年間の思い出を振り返るストーリーの中に、今も各学年が取り組む定番活動の意義が込められ、在校生への力強いエールが感じられる見事な劇でした。また、終了後、すてきな企画を成功に導いた5年生、思いを表した1～4年生に、6年生からお礼の手紙が届きました。心つながる行事となりました。



6年生ありがとう～1年生より

城ヶ丘っ子大活躍！

＊活躍の幅を広げて、県外・国外で大活躍した児童を紹介します。

＜台湾諸羅山杯国際少年軟式野球大会：台湾＞

5年：12月下旬

＜クロスカントリーJOC ジュニアオリンピックカップ：北海道名寄市＞

6年：3月上旬

☆ 今後も城ヶ丘っ子の様々な分野での活躍を期待しています！

第4回合同学校運営協議会（3月12日）報告

今年度最終の会で、取組報告、来年度の方針説明後、次のような話題が協議されました。

- ふれあいの丘との交流について、子どもたちは家庭でもよく話をする。両校の交流活動が今年またプラスされてよかった。さらに社会に発信していくとよい。
- 三施設が共にあることで全ての学びの場があり、就学時に体験しながら学校選びができる。三施設の後ろに地域があることもすばらしい。
- 七夕祭りへの参加など、コロナ禍明けにより活動を復活させ、さらに広げるとよい。
- 若い先生方の視点によさがある。子どもたちの実態や声を把握することに生かしたい。
- 親として、よりよい睡眠や学習について共に考えてきた。やはりメディア時間が多くなりがち。
- 様々なボランティアが学校に入っている。名札を付けて、名前を覚えてもらえるとよい。

全国的に注目される「夢の学校」

三施設併設の校舎として設立されてから12年目となった今年度、全国各地から視察団が訪れました。さらに、文部科学省の機関である国立特別支援教育総合研究所(以下「特総研」)の研究協力校としても、全国各地の学校等と取組の情報交換を行ってきました。

その流れで、3月8日(土)には特総研セミナーがあり、十日町小とふれあいの丘支援学校との交流活動や、三施設で児童生徒の発達を支援していること、多様な学びの場を示していること等を発信してきました。

文部科学省が推進しているのは、「インクルーシブ教育＝障害の有無に関わらず子どもたちが共に学ぶ教育」です。また特総研は、そうした教育により「共生社会の担い手を育てる」ことを目指しています。上記セミナーでは、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長の生方 裕氏の「行政説明」の中で、右のようにインクルーシブ教育「実践事例1」として、この三施設の体制と交流活動が紹介されました。

この「夢の学校」で学んでいる子どもたちが、「相手の立場に立って物事を考える」「誰にも好きなことや苦手なことがある」といったことに気づき、「共に生きる」生き方を学んでいることを今後も大切にして、歩んでまいります。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

事例1：A市立小学校・A市立特別支援学校 (知的障害、小・中学部)

◆ 連携類型：一体型（同一建物）

小学校の改築の際に、特別支援学校、児童発達支援センターを同じ建物に一体的に整備。

※児童発達支援センター、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった多様な学びの場を備えている。

◆ 特色ある取組：

(教育面)

年間通して、小学校4年生の総合的な学習の時間において、特別支援学校の児童生徒との交流及び共同学習を実施。

(体制面)

各施設の教職員間で合同職員会議や研修会等を実施。

◆ 日常的な交流での工夫：

各施設をつなぐオープンスペースや両校の交流スペースを設置。



4月の主な行事予定



日	曜	内 容	日	曜	内 容
7	月	新任式・1学期始業式（給食なし）	16	水	NRT 学力検査(2～4年算、5・6年算・社)
8	火	入学式 2年生以上給食開始・5限下校	17	木	全国学力・学習状況調査(6年国・算) PTA運営委員会 18:00～
11	金	1年生給食開始	18	金	ゆめのおかはじまりの会
14	月	町内子ども会（5限）・集団下校	21	月	合同避難訓練
15	火	NRT 学力検査(2～4年国、5・6年国・理)	25	金	学習参観・学年懇談会・PTA総会